

令和5年度 第6回全体庁議（8月4日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(11) 帯広市地方公共団体実行計画（区域施策編）（骨子案） について[都市環境部]
----	-------	--------------	---

■ 提案・報告の趣旨
<p>ゼロカーボンの実現に向けた目標や様々な取り組みなどの推進について定めた、地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)に基づく地方公共団体実行計画(区域施策編)の骨子案を作成したことから、8月21日に開催される建設委員会に報告するもの。</p>

■ 提案・報告の主な内容(概要)
<p>1 計画の趣旨 地球温暖化対策が世界共通の喫緊の課題となる中、国は令和2年10月に、「2050年カーボンニュートラル」を宣言。地方においても、北海道をはじめとする国内各地で脱炭素化に向けた取り組みが加速し、帯広市は、令和4年6月にゼロカーボンシティを表明した。 本計画は、これまで環境モデル都市として積み重ねてきた実績を基盤に、国や北海道の取り組みも踏まえ、ゼロカーボンに向けた目標や様々な取り組みなどを推進することで、持続可能な脱炭素社会の実現を目指すもの。</p> <p>2 計画の位置づけ、期間 ・温対法に基づく地方公共団体実行計画(区域施策編)として策定し、気候変動適応法に基づく地域気候変動適応計画を兼ねるものとする。また、第七期帯広市総合計画の分野計画として、環境基本計画など関連する計画との整合を図るもの。 ・計画期間は令和6年度から令和12年度までの7年間。</p> <p>3 帯広市環境モデル都市行動計画に基づく取り組みの状況 ・平成20(2008)年に環境モデル都市に選定されて以降、平成12(2000)年比で令和12(2030)年までに30%以上、令和32(2050)年までに50%以上、温室効果ガスの排出を削減することを目標に掲げ、3期に渡る「帯広市環境モデル都市行動計画」に基づき、様々な取り組みを進めてきた。 ・令和3年度における温室効果ガス排出削減量の目標達成率は約103%となっており、一部に遅れはあるものの計画は概ね順調に進捗している。</p> <p>4 新たな計画策定の基本的な考え方 ・温室効果ガスの排出削減目標は、2050年ゼロカーボンを見据えつつ、北海道の目標を踏まえ、2030年度までに2013年度比48%削減とする。 ・ゼロカーボンの実現に向けては、省エネルギー対策の推進や再生可能エネルギーの普及拡大など5つの基本方針に従い取り組みを進める。 ・高い目標の達成には、市民、事業者、市などが一体となって取り組みを進めることが必要。</p> <p>5 気候変動への適応 ・今後、起こり得る気候変動による影響に対して、市民や企業等が柔軟に適応できることを目指し、北海道が策定した気候変動適応計画における重点分野を参考として、適応策を定めていく。</p> <p>6 進捗管理 ・毎年度、温室効果ガス排出量の算出や指標の達成状況等を把握し、帯広市環境審議会等からの意見を聞きながら、進捗の分析・評価を行う。</p>

■ 今後のスケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年8月21日 建設委員会へ報告（骨子案） ・令和5年11月 建設委員会へ報告（原案） ・令和5年12月 パブリックコメント ・令和6年2月 建設委員会へ報告（最終案） ・令和6年3月 計画策定

■ 審議結果
<ul style="list-style-type: none"> ・同内容で、8月21日建設委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等
<ul style="list-style-type: none"> ・提案・報告内容が容易に想定できる案件名とするよう文言修正の指摘があった。 ・「4 新たな計画策定の基本的な考え方」の一部文言について、よりわかりやすく適切な表現に整理するよう指摘があった。